

## スポーツを通しての倫理教育に関する研究 —映像教材「ピエール・ド・クーベルタン：過去と現在」の分析—

### A Study on Ethics Education through Sports : Focusing on the Educational DVD “Pierre de Coubertin : Yesterday and Today”

田原 淳子, 池田 延行

Junko TAHARA and Nobuyuki IKEDA

#### はじめに

本研究は、国際ピエール・ド・クーベルタン委員会（Comité International Pierre de Coubertin, 以下CIPCと略す）制作のDVD映像教材「ピエール・ド・クーベルタン：過去と現在」において、クーベルタンという人物および彼の思想がどのように描かれているのかを明らかにするものである。周知の通り、ピエール・ド・クーベルタンは近代オリンピックの創始者であり、フランスの貴族で教育者として知られている。オリンピック大会およびそれを主催する国際オリンピック委員会（IOC）の創設は、クーベルタンが抱いた人類や国際社会に対する壮大な夢を実現するための一つの試みであったといわれている。

この映像教材を制作したCIPCは、1987年にクーベルタンの思想の維持・普及・教育・研究を目的として設立された。主な活動は、出版物の発行、シンポジウム等の開催、IOC関連会議での発表、国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラムの開催（1997年より隔年開催）、優れた学術論文に対するクーベルタン賞の授与（2008年よ

り隔年）であり、IOCと密接な連携をとりながら活動を行っている。

本研究により、CIPCが普及に努めているクーベルタン像を明らかにすることは、クーベルタンおよびオリンピックの理解に資することはもとより、わが国の中学校および高等学校保健体育の体育理論で扱う「スポーツの文化的意義」や「オリンピック・ムーブメント」の学習にも役立つ資料を提供することを可能にする。

#### 結 果

「ピエール・ド・クーベルタン：過去と現在」は、クーベルタンについての知識を普及し理解を広めるために2005年に制作された。映像時間51分40秒、視聴する言語はフランス語、英語、ドイツ語の3カ国語から選択できる。出演者は20人を超え、この種の映像教材にしては多いといえる。クーベルタンを描き出すための多彩な出演者の中で、複数にわたって登場するのは、IOC会長とCIPC会長である。出演者とそこでの主な話題などを次の表に示した。

出演者（肩書など）	情景・話題など
カール・ハインツ・オズワルド（芸術家）	若き日のクーベルタンの彫像を制作中
ナレーター	クーベルタンという人
ジャック・ロゲ（IOC会長）	クーベルタンに「謝意を伝えたい」
クーベルタン	ラジオ演説（近代オリimpiズムの哲学的原理）
ナレーター／クーベルタン・スクールの生徒・教師・校長	古代オリimpiック、クーベルタン・スクール（ピルゴス、ギリシャ）、国際オリimpiック・アカデミー（オリimpia、ギリシャ）
ジャック・グール	クーベルタンの思い出（ジュネーブ）
ノーベルト・ミュラー（CIPC会長）／ナレーター	クーベルタンのオリimpiック復興への歩み、教育思想、クーベルタンが影響を受けた人々、オリimpiック競技大会の意義、IOC設立
ジャック・ロゲ／ナレーター	クーベルタンの平和思想とスポーツ
ナレーター／ジャン・デュリ（クーベルタン研究者、CIPC副会長）	第1回アテネ大会、第2回パリ大会
ノーベルト・ミュラー／ナレーター／サージ・ラジェ	クーベルタンが好んだスポーツ種目（ボクシング、フェンシング、自転車など）
ナレーター	1912年ストックホルム大会
ジャック・ナバセル（クーベルタン家）／ナレーター	クーベルタンの幼少・青年時代、ミルビル城、家族、生活
ジャック・ロゲ／ナレーター	オリimpiックの芸術競技、スポーツと芸術
ノーベルト・ミュラー／ナレーター	1972年ミュンヘン大会と芸術（スタジアムの建築と工学）
クーベルタン賞受賞者／ナレーター	高校生のクーベルタン賞、音楽の才能、スポーツと学校社会における公正な態度と個人的責務での功績
ナレーター／生徒	クーベルタン・スクール（エアフルト、ドイツ）の取り組み
ナレーター／フランチェ・カラー（チェコのオリimpiック史家）／ノーベルト・ミュラー／ジャック・ロゲ	オリimpiック大会における女性の参加
ナレーター／ノーベルト・ミュラー	1936年ベルリン大会、カール・ディーム、オリimpiックの理想
ナレーター	ノーベル平和賞へのノミネート、政治における積極的な役割
ナレーター／ステファン・パッソング（オリimpiック史研究者）	オリimpiック博物館、クーベルタンの家族、ローザンスへの移住、ローザンス名誉市民へのノミネート、交換留学の奨励
ナレーター／ジョエル・ボウソウ／フェンシング選手／モナコのIOC委員	近代五種競技の導入
クーベルタン・スクールの校長ら	クーベルタンの重要性（スポーツの社会的・倫理的要素）、「より速く、より高く、より強く」（自分自身を乗り越えようとして最前を尽くさねばならない）
ナレーター／ノーベルト・ミュラー	「皆のためのスポーツ」、アスリートの非道具化（自らスポーツを楽しみ、自己形成のために活用できる）
ジャック・ロゲ／ナレーター	クーベルタンの一番の業績は、スポーツが教育の一つの方法だと世界を説得したことだ。スポーツは重要な社会的要素

## 結 論

映像教材「ピエール・ド・クーベルタン：過去と現在」では、クーベルタンにかかわる多彩な人々が登場し、クーベルタンという人物、人生、思想、功績、クーベルタンが特に深く関与したオリンピック大会について様々な立場から語られている。数多くの出演者のなかで、IOC会長ジャック・ロゲの登場は、クーベルタンの今日的意義を語る上でインパクトを与えている。ロゲは、クーベルタンの功績として、オリンピックに重要な社会的意味があること、スポーツが教育の有効な手段であることを示したと明言した。

制作者であるCIPCは、クーベルタンの業績が、時代の変化のなかで一部修正を余儀なくされたことも認めている。それは女性の大会参加についてである。一方、クーベルタン・スクールの関係者

やクーベルタン賞の受賞者が語っているように、クーベルタンの思想に含まれるスポーツと教育、人道、平和などは、時代がいかに変化しようとも普遍的な価値であり、オリンピックと関連づけて繰り返し語り継がれていかなければならないものである。その意味で、この映像教材が果たする役割は決して小さなものではない。敢えて、課題を述べるとすれば、この映像教材がイギリス、フランス、スイス、ドイツを中心とするヨーロッパを舞台に制作されていることから、日本やアジア諸国にも視野を広げて話題や登場人物を選択すれば、クーベルタンとアジア諸国との交流の歩みが描かれ、よりグローバルな視点が見えてくるのではないかと思われる。

本研究は平成22年度国士舘大学体育学部附属体育研究所研究助成により実施された。